

EDUCATION

生理学会実習書の改訂にあたって

日本生理学会実習書改訂小委員会委員長
鳥取大学医学部適応生理 河合 康明

日本生理学会教育委員会（鯉淵典之委員長）では、現在、実習書改訂小委員会を設置し、実習書の改訂作業を進めています。日本生理学会編「生理学実習書」(図1)は、1977年に初版が出版され、その後1991年に大幅な見直しが行われ、「新・生理学実習書」(図2)が刊行されました。

1977年版の生理学実習書には、学生実習に直接利用される内容とともに、学生実習としては高度かつ長時間を要する実習も収録されました。その当時の生理学の高い学術レベルを示そうという、崇高な配慮が窺われます。1991年の改訂の折には、basic course と advanced course の2分冊とすることを前提とし、新・生理学実習書は「basic」な内容を扱うという編集方針のもと、使いやすさを考慮した実用的な実習書となりました。

今回の改訂は、「実用的な実習書を目指す」という観点で、前著の方針を踏襲するものの、刊行以

来20年が過ぎ、①筆頭著者であった先生方の多くが引退されていること、②実習機器が改良されてきたこと、③実習に対する一般人の意識（特に動物実験や人権に対する配慮）が変化してきたことなどの理由により、全面的な書き直し作業を行うことに致しました。

実習項目の選定にあたっては、1977年版の編集方針（全国の生理学教室で実施されている生理学実習項目の中で、比較的頻度の高いもの）と、1991年版の編集方針（できるだけ費用・人手がかからず、専門外の指導者であっても容易に理解、指導できるもの）を参考と致しました。そのため、生理学会会員の皆様をお願いして、アンケートにより生理学実習の実態調査を行い、実施頻度の高い実習項目を調べました。アンケート調査の結果は、本誌第71巻7・8号（2009年）に報告いたしましたので、参考にしていただければ幸いです。生理

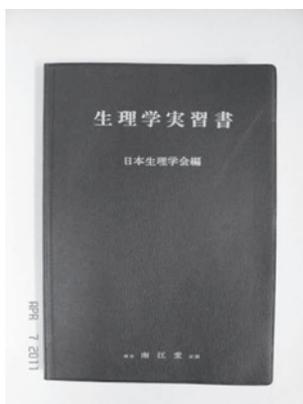


図1. 生理学実習書



図2. 新・生理学実習書

学実習書の利用者は、医学部のみならず、歯学部、体育学部、コメディカルなどの教員や学生が見込まれます。そこで一部の実習項目は、そうした幅広い利用者のことを勘案して、選定致しました。

高等教育の中で実習が果たす役割は、きわめて重要です。大学設置基準にも、「授業の方法は、講義、演習、実習のいずれか（または併用）により行うものとする」と、明確に位置づけられています。講義で学んだ知識や技術を、実際の現場で、実物を用いて、自らの手を動かして学ぶ実習は、何物にも代えがたい学習効果をもたらします。生理学実習には、生体现象をリアルタイムで観察し、記録し、定量化し、図表化し、結果を解析し、他者に対してプレゼンテーションするといった、医師、歯科医師、医療従事者、科学者などにとって基本となるトレーニングが包含されています。さらに、実習の準備段階では、測定方法を理解し、作業仮説を立て、実験のプロトコールを考えるなどの作業を通して、既習の知識を整理する、論理的思考法を身につける、グループ内での討論を通じてコミュニケーション能力を磨くなどといった効果も期待できます。

しかるに、アンケート調査や生理学会会員からの情報によって浮き彫りにされた実態は、生理学実習の縮小傾向を示しています。近年、少なからぬ大学のカリキュラムにおいて、実施される生理学実習の項目が減少しているようです。医学教育の変遷に伴い、臨床医学の教育に重点がシフトし

ていることや、基礎医学教室のスタッフ減少が生理学教室にも波及していることなどが原因と考えられます。さらに、ここ数年、医師不足解消のために医学部入学定員が増加していることから、きめ細かな実習指導がしにくくなるなど、教育環境の悪化が懸念されます。

こうした逆境の中で、効果的な生理学実習を行うためには、学生側と教員側それぞれに努力・工夫することが求められます。学生側に求められるのは、何と云っても能動的な学習態度でしょう。学生にそうしたモチベーションを抱かせるためには、教員側の工夫が必要です。実習書に記載されている内容は、オーソドックスな実習内容が主体です。実施にあたっては、これらの素材にスパイスをふりかけ、学生の学習意欲をそそるような実習に仕立てていただきたいと思います。そのような実習書の使い方をしていただければ、編集者として、これに勝る喜びはございません。

実習書の編集を進めるさなか、平成23年3月11日、東日本大震災が発生致しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。実習書の執筆、編集に携わっていただいている中にも、東北や関東地方の先生方が大勢いらしゃいます。このような未曾有の非常時にもかかわらず、実習書の発刊に向けてご協力いただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、篤く御礼申し上げます。研究室の一日も早い復興と、旧来にもまさる皆様のご活躍を祈念いたしております。